

志賀原子力発電所 1号機 原子炉内の全燃料取出し後における制御棒の挿入事象について

第12回定期検査中の志賀原子力発電所 1号機において、全燃料が原子炉内から使用済燃料プールに取り出され、全制御棒が引き抜かれている状態の平成22年 6月24日18時頃、制御棒 1本が原子炉内に挿入されていることを確認しました。

直ちに、当該制御棒の外観点検を実施した結果、制御棒表面に通常見られる程度のわずかなこすれた跡がありましたが、制御棒の機能に影響を与えるものではありませんでした。

その後、制御棒の詳細な点検および原因調査を7月4日に終了し、対策を策定しました。

制御棒が挿入された原因は、制御棒の水圧制御ユニット* 1体ずつの漏えい試験のため試験用の仮設ポンプで加圧したところ、当該水圧制御ユニットの挿入側隔離弁が開いていたため、加圧水により制御棒が原子炉内に挿入したものです。開いていた挿入側隔離弁は、6月23日に実施した制御棒に係る別の作業において開閉した際に閉め忘れたものです。

対策として、「1確認・1操作」、「1操作・1確認」という基本動作の徹底を図るため、社内要領に基本動作を明記するとともに、基本動作に関する運転員の教育方法を改善した上で、今後も教育を継続的に実施していきます。また、水圧制御ユニット内の隔離弁の開閉状態が一目で分かるように目印を取り付けます。

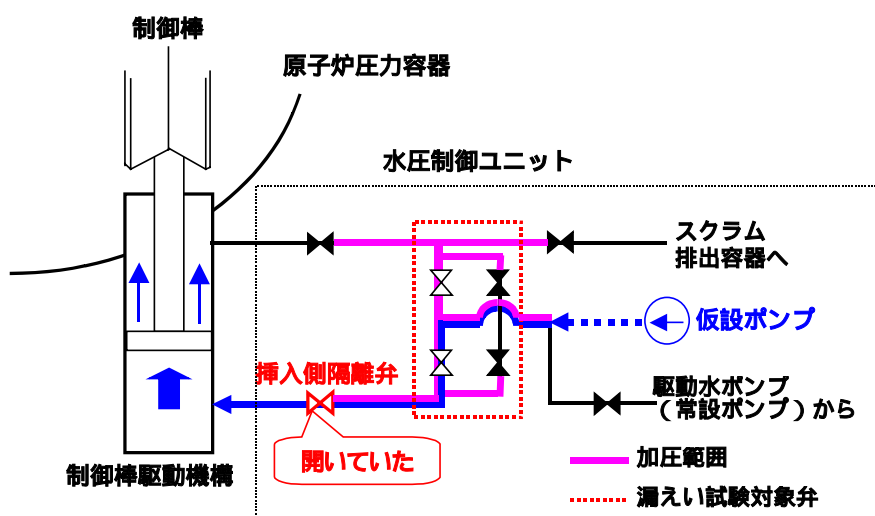
今後、確実な操作を徹底してまいります。

念のため当該制御棒は今回の定期検査時に新品と取り替えます。

今回の事象は、全燃料が取り出されている状態で行った試験の際に発生したものであり、原子炉の安全性に影響はなく、外部への放射能の影響はありません。

*：水圧制御ユニット

制御棒を原子炉圧力容器内に挿入又は引き抜きするため、制御棒駆動機構に駆動水等を送る装置



水圧制御ユニット漏えい試験概要図